

研究課題：精巣捻転の診断、加療における Point of care ultrasound における有用性と画像所見についての後ろ向き研究

1. **研究の目的：**精巣捻転の診断、加療において、Point of care ultrasound (POCUS) の有用と、その画像所見を明らかにします

研究の概要：精巣捻転は、早期に診断、治療しなければ精巣壊死につながる疾患です。急性の陰嚢痛として救急外来を受診し、超音波で診断され、診断に基づいて治療が選択されます。発症から 6 時間以内の捻転解除が勧められており、時間的な猶予が限られています。そのため POCUS といわれる、超音波を用いて臨床医が、疑われる疾患を、その場で診断することの重要性が言われています。今回、精巣捻転が疑われた患者の診断、加療において POCUS の有用性と、注目すべき、また注意すべき画像所見について、後方視的に検討します。

2. **研究の方法**

2006 年 9 月から 2023 年 8 月までに精巣捻転が疑われ緊急で画像検査が行われた患者様を対象とし、2023 年 9 月（倫理委員会で承認を得られた日）から 2023 年 12 月までに臨床情報、治療法、画像所見などを後方視的に調べます。

3. **研究期間**

2023 年 9 月（倫理委員会で承認を得られた日）から 2023 年 12 月まで。

4. **研究に用いる資料・情報の種類**

臨床情報と画像検査、その後の経過に関する事柄（画像、検査所見、治療方法、臨床所見）を調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. **外部への資料・情報の提供、研究成果の公表**

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. **研究組織**

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター
実施責任者：放射線科 医長 細川崇洋

実施分担者：放射線科 副院長 小熊栄二
放射線科 医長 佐藤裕美子
個人情報管理者：放射線科 科長 田波穰

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2023年12月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）